

土肥真人

【全体講評】

運営委員長を仰せつかって2年目になりました。今年度もよろしくおねがいします。

さて今年は、これまで別日に行ってきた公開審査会と活動報告会とを、一日で開催することにしました。朝10時から午後6時までの長丁場になりましたが、より多くのまちづくりファンドの仲間たちが交流できたのではないかと考えています。会場のしゃれな一斗ホールには、審査会、報告会に参加するグループの、大きなポスターが46枚も張り出され、また活動拠点を記した大きな地図も用意されて、本当に世田谷中からいろいろな活動を行っている仲間たちが参集した！という雰囲気でした。私も運営委員として、また一市民として、審査に向かうグループの方々や、笑顔で活動報告をしてくれたグループの人々の熱気と充実感に、共に浸ることができ、大変幸せな時間でした。世田谷のまちづくりのエネルギーの本源を見ることができたと思っています。

今年度は、「はじめの一步部門」に6件、「まちづくり活動部門」に20件の応募がありました。昨年はそれぞれ13件、23件でしたから、特に「はじめの一步部門」の応募が半減しています。また今年度は「ネット文庫制作部門」(昨年度3件)、「まちを元気にする拠点づくり部門」(昨年度2件)の募集を行わなかったため、全体としては応募数がだいぶ少なくなってしまいました。これはやはり東日本大震災の影響があるのかもしれませんが。

審査結果ですが、「はじめの一步部門」は6件全部が、「まちづくり活動部門」は18件が助成対象となりました。昨年の講評と同じことを書くのですが、助成できない結果になったグループの方々、これは決して皆様の申請が劣っていたということの意味するものではありません。ぜひ各委員の講評を見ていただき、容れるべき点があれば提案書をブラッシュアップして、再度挑戦いただければと思います。助成決定されたグループの方々、おめでとうございます。これからどのようなまちづくりの花が咲き誇ることになるのか、来年の報告会を心より楽しみにしています。

3月の震災以来、本当にいろんなことが変わってしまい、また変わるのだな、と感じています。私が携わってきた「まちづくり」の分野でも、その真価が問われています。これから、被災された方々、ご家族をなくした方々、避難を余儀なくされている方々が、暮し続けられるまちをどのように形作るのか、今後何年かが正念場になるでしょう。世田谷まちづくりファンド運営委員会でも、震災関係の特別部門の創設、来年に迎えるファンド20周年との関係付けなどについて、検討している最中です。ファンドがこれまで蓄積してきた経験やネットワークを生かしてどのような取り組みができるのか、今年度中には、何かアクションを起こしたいと考えています。その折には、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今回の公開審査会へのご支援、ご協力、ありがとうございました。

【個別講評】

<はじめの一步部門>

今年度のはじめの一步部門へ申請された6団体は、運営委員会での書面審査の結果、すべて助成対象としてふさわしいということになりました。今年は、エネルギー、子ども、環境、医療、アートなど多岐にわたる提案が寄せられました。どれも「まち」が生きていくために大切な活動だと思います。皆さんにこれから蒔いていただける「まちづくりのタネ」が、世田谷にしっかりと根づいて、花をつけ実をつける日が楽しみです。一年後の活動報告会を心から楽しみにしています。どうぞ楽しみながら、がんばってください。

<まちづくり活動部門>

1-1 パーマカルチャーガーデン世田谷

一緒に暮しているマンションの住民が共同でコミュニティ・ガーデンを作るという提案は、プレゼンテーションの絵もあって、とても楽しそうです。共有の場所を作ることで皆さんの関係はどのように変化するのでしょうか。またマンションの居住者以外の人々とコミュニティ・ガーデンを介しての繋がり方にもおおいに興味がありました。ぜひ来年の発表で教えてください。

1-2 からすやま地域の力を集める会

まちづくりでの連携の必要性を多くのグループで共有し、具体的な活動に結びつける、大変重要でかつまた難しい課題だと思います。今年は青空ワークショップによるアイデア募集と宣伝の年でしょうか。多くの人々に参加してもらう方法と、出されたアイデアをどのように生かすのか、これらの点がワークショップの成否の鍵になるかと思います。成果の報告が楽しみです。

1-3 きっかけファクトリー

耕作放棄地と希望者のあふれている市民農園を結びつけるアイデアはすばらしいと思います。ただ、まだ耕作放棄地提供者が決まっていないこと、市民の募集の方法、耕作期間の短さなど懸念される要素もあると思いました。しかしそんな心配は無用なのかもしれませんから、ぜひ世田谷の貴重な農地を再開墾し、市民が土に触れる機会を耕してください。

1-4 千歳小おやじの会

旺盛な活動力と家庭を思う繊細な心の共存が魅力的です。学校にとって、子どもたちにとって力強い応援団ですね。テントの必要性も十分に伝わりました。地域貢献活動に関してですが、ここにも小学校のつながりを見出すことはできないのでしょうか。例えば千歳小学校のOBとの出会いとか…。おやじの

会の親父くらいの世代も巻き込めると更にすごいことになるのでは、などと考えてしまいます。

1-5 玉川にエコタウンをつくる会

二子玉川の変化には、通勤で駅を使うだけの者としても驚きます。提案されている活動内容はどれも大切なものですが、私としては特に、駅前グリーン作戦と高校跡地利用の提言プランに興味を持ちました。ぜひ地域の人々と共に、二子玉川の新しい名所を提案していただきたいと思います。

1-6 グリーンドリンクス せたがや

まちづくりに関わる人々やグループの交流やネットワークの必要性は、多くの人を感じているところです。またそのような提案はこのファンにも多く応募されてきたと思います。逆に言うと、必要性は多くの人を感じながらも実現は困難な課題なのだとということだと思います。残念ながら今回の提案内容からはこの困難さを克服する具体的なイメージを得ることができませんでした。

1-7 街づくりの仲間たち

「街づくりの仲間たち」が交流する場を本格的に立ち上げ育てることは、大変なことだと思います。地域会の立ち上げが重要な鍵になりそうですが、それにしても組織をかつちりと作れば良いというものではないでしょうから、オープンでかつ動ける団体というイメージでしょうか。地域の人々を巻き込んだ活動を期待します。

1-8 ころ からだ Selfeel

セルフケアから子育て支援、さらにまちのケアへと繋がる活動は、頭で考えると「ちょっと飛躍しすぎなのでは？」ともなるのですが、昨年度の活動から用賀の地域の子育て環境が見えたという説明には納得でした。ポスターセッションでもお話ししましたが、まちを癒す花々の香り、パン屋さんの香り、焼き鳥屋や鰻屋さんの香ばしい匂いなど、さらに身体と心とかおりとまちの関係を追求して欲しいと思います。

1-9 Welcome Ch

企画の意義、現実性には納得しました。ただコストパフォーマンスには疑問が残り、申請額よりはだいぶ低い助成額を出しました。番組そのものに加えて、番組作成過程で人を育てるという提案かとも思いましたが、明確には伝わってきませんでした。大幅に減額されてしまいましたが、私としては4本の番組を制作していただければと願っています。番組を見るのを楽しみにしています。

1-10 働きたいママの応援 Cafe

アイデアは抜群だと思いました。これがビジネスとして成立して、働きたいお母さん達の雇用を生み出すことができれば、なんとすばらしいことでしょうか。ただ今年度一年でどこまで進めることができるのかに多少の疑問を持ちました。といっても私の感覚がビジネス的ではないのかもしれませんが、ぜひ

実績を上げていただきたいと思います。

2-1 フラワーランド園芸ミニディ

皆さんが、苗を作り水をやり花柄を摘み黙々と働くと、地域の施設が花で賑やかになり、まちに優しさが見えるようになり、一緒に作業をしている施設の人々や子ども達に笑顔があふれるようになる。そんな魔法を見せられているような気分になりました。今年も精力的な活動をお願いします。

2-2 東京グリーンプロジェクト

昨年度の活動実績によりいくつもの賞を受賞されたとのこと、おめでとうございます。それも当然だな、と思わせる夢のような学校菜園の実現でした。自分の学校で作った芋をプレイパークで焼き芋にする、そんな世田谷の子どもたちは幸せだな、と思いました。今年は全学年で菜園を作るということですが、どうぞまた子ども達の目をきらきらと輝かせてください。

2-3 放課後あそび舎

満額助成おめでとうございます。ハッククラブの子どもたちの真っ黒の顔や手が見えるようでした。今年にはさらに活動場所を広げる予定とのこと、ぜひ自然と地域と遊びたがっている子どものために頑張ってください。そして、遊びを通したこどもと地域のつながりの具体的な姿を教えてください。

2-4 野川の多自然型川づくりを考える連絡会

みなさんの活動の成果でかわせみが巣を作ることが可能な河川改修になったこと、ほんとうに素晴らしい成果だと思いました。市民が専門的知識を学び、市民の力で行政と交渉し、まちに自然をよびもどすという活動の仕方にも共感しました。今年は雨水貯留に取り組まれるとのこと、成果報告を楽しみにしています。野川のかわせみに会いに行きたいと思っています。

2-5 SAN/せたがや地域共生ネットワーク

今年は「夏みかんひろば」が中心になりそうですね。まちのネットワークそのものを育て場をひらく、という皆さんの活動が、夏みかんひろばという新たな場と、子ども達やお年寄り、まちの木々を守るという課題を得て、どのように展開するのか楽しみです。

2-6 EARTH CREW

数多くのイベントを企画されていましたが、各イベントの具体的な規模や対象者などが明確に伝わりませんでした。またそれぞれのイベントの関連も、公募からイベントへというストーリーは解るのですが、内容的にどのように繋がっているのか、よく理解できませんでした。この2点が助成の妥当性に疑問を持った理由です。

3-1 芦花公園しあわせの野音の会

地域の人々がよく話し合いながら公園を使いこなす、そんなイメージを皆さんの活動には持っています。大きな木々に囲まれてダンスあり、ブルースあり、フォークありの舞台は、月に一度あらわれる幸せな空間だと思います。更に多くの人々と公園でめぐり合って、公園を地域の人々のつながりの舞台に仕立ててください。

3-2 豪徳寺駅周辺風景づくりの会

自分たちの暮らすまちの風景を丁寧に作り続けようとする姿勢には頭が下がります。今年度はより多くの賛同者を得るためのワークショップを開催し、さらに一歩を進めるということですが、私は特に北沢川の照明実験がおもしろいと思いました。これこそ地域の人々の感じ方が大切なことがらだと思います。まちをあげて夜の風景を演出するなんて素敵ですよ。

3-3 岡さんのいえ TOMO

今年は上北沢のまちへ「ひろがる」ことがテーマとのこと。まちづくり部門のファンド助成が3年間であることから、今年の成果が「まちのお茶の間」の今後に大きく貢献しそうです。広く強く地域に根を張って、大きな木のように優しく地域の人々を見守り、また地域の人々に見守られる「いえ」になってください。応援しています。

3-4 わいわいコミュニティ・たまがわ

「わいわいコミュニティ」や「ゆったりカフェ」のネーミングが、グループやイベントの雰囲気を表していますよね。賑やかに着実に活動を進め、広げていることに敬意を表します。今年はこれまでの記録をまとめられるとのことですが、振り返ることで、赤ちゃんからお年寄りまで皆が集まれるコミュニティ・カフェへの鍵が見つかることを期待しています。